



観音崎自然博物館 館長

河野えり子さん

略歴

河野えり子(こうの えり子)さん
 1962年、長野県東御市(とうみし)生まれ。県立上田高校卒業後、東京水産大学(現・東京海洋大学)に進学。卒業論文ではテナガエビの行動について研究。84年に京急油壺マリンパークに入社。89年に子育てのために退社。海が好きで活動することを求め、97年に観音崎自然博物館の教育ボランティアに登録。ボランティアとして博物館活動に参加するなかで、99年に非常勤の研究員になる。さらに2007年には常勤の主任研究員になる。16年11月から館長となる。



観音崎自然博物館
 1953年に観音崎観光株式会社により博物館が創設される。62年に世界で初めて、マダライの種苗生産に成功。閉鎖の危機に当たり、79年に社団法人観音崎自然博物館保存会(四電安正館長)ができる。83年幡井勉館長。86年に博物館存続の請願が県議会で採択される。87年山下金義館長。90年イソギクなど海岸植物復元。89年に現在の位置に新館がオープン。93年教育ボランティア活動開始。94年ボランティアによりイソギク1万本増殖、自然海岸に移植成功。98年ミヤコタナゴの大量増殖法に成功(石鍋副館長ら)、鈴木文吾館長。01年高橋政雄館長。02年ソナレマツムシソウの大量繁殖、自然海岸移植に成功。09年石鍋壽寛館長。12年公益社団法人観音崎自然博物館に改称。16年河野館長。
 東京湾に流入する河川の源流域から東京湾の深海域までをひとまとまりの「東京湾集水域」ととらえ、その森と海と人をテーマとしたエコミュージアムをめざしている。

みは館のHPから。また、小・中・高や一般団体からの希望で、体験学習も実施しています。磯の生物の観察を、4月から10月の大潮、中潮の日の午前10時から14時ごろに行ないます。これまでの参加者は10万人以上のほり、なかには海の生物の研究者になる人も出ています。博物館としては、これまで積み重ねてきたタナゴ類の飼育展示を維持し、さらに展示物も充実させていきたいと願っています。規模の小さな博物館のよさを活かし、求職された人と接し、楽しんでいただくのが生きがいです。

11月1日に、観音崎自然博物館の新しい館長に就任した河野えり子さんを紹介します。

長野育ちで海にあこがれ

河野さんは、長野県東御市(旧・東御市)で生まれ育ちました。長野県が山国であったために海にあこがれ、海について学びたいと思えました。県立上田高校から東京水産大学(現・東京海洋大学)水産学部資源増殖学科

に入學しました。1984年に卒業、夢がかなって京急油壺マリンパークに就職。飼育部海獣担当に配属され、女性トレーナーとしてアシカショーを

担当。お客さんの笑いが生かいでした。86年には飼育部魚類担当に配属され、魚類の飼育にも従事しました。出産を機に、夫から日

曜日は家にいてほしいと言われて退職、専業主婦になりました。水族館の仕事は土日出勤が通常だったからです。

非常勤研究員から主任研究員に抜擢

しかし、海へのあこがれは抑えることができません。横須賀に住んでいたこともあり、市内の観音崎自然博物館の教育ボランティアに登録し、博物館活動に市民ボランティアとして参加しました。活動に熱中するなかで博物館からの要請で99年、非常勤研究員になり、2007年には常勤の主任研究員になりました。

「川は住民のもの」前館長の言葉

石鍋前館長は、主任研究員だった1990年から天然記念物に指定されたミヤコタナゴの千葉県調査委員会を担当し、95年と96年にはタナゴ類の国際学術研究のため、中国大陸にも渡って研究活動を行い、97年にはミヤコタナゴの特別公開の許可を文化庁と千葉県からいただきました。

ボランティアから博物館館長へ海が好きなのは博物館に来てね!

館の教育ボランティアに登録し、博物館活動に市民ボランティアとして参加しました。活動に熱中するなかで博物館からの要請で99年、非常勤研究員になり、2007年には常勤の主任研究員になりました。

まだ小学生の男子2人の子育てでしたが、当時の石鍋壽寛館長はイクボスの走り、子どもを博物館に連れてくることを許してくれ、博物館の同僚、ボランティアの皆さんの理解と協力もあって、研究員として勤務することができたの

98年にはついにミヤコタナゴの大量増殖法を確立し、翌年にはなんと10万尾の人工増殖に成功し、千葉県市原市と御宿町に里帰りさせることができました。2001年には、ミヤコタナゴの産卵母魚である下

プガイの大量繁殖にも成功しました。02年には間瀬浩子主任研究員がニッポンバラタナゴの大量繁殖に成功し、03年には中国海南島産のカガミバラタナゴの養殖にも成功しました。04年には韓国産少タナゴの繁殖にも成功、台湾のタナゴについても共同研究も進め、11年には日中韓3カ国タナゴ環境調査を上海で開催しています。

前館長は、「川は研究者のためだけでなく、住民のものだ。地元の人びとが自然を大事に思ってもらわなければ、生息地を守ることができない」と語っていました。

河野さんは「前館長は、少年時代に川で遊び、魚を釣った環境が元に戻ることをずっと夢見ていたのでないか。61歳の若さで病に倒れたのは本当に残念」と話します。

市民ボランティアとともに

河野さん自身が、ボランティアの出身だけに、多くに博物館活動を進めています。

今後の行事としては、12月10日に城ヶ島パードウォッチング、12月13日には夜の磯で生きものウォッチング(大人のみ)、1月14日はハバノリを食べよう、1月21日は小松が池・三浦会、4月1日は海藻観察会